

日本にとって脅威と知覚される国・地域に関するテキスト分析 —脅威種類と性別に関する探索的検討—

李 禕飛・沼崎 誠（東京都立大学人文科学研究科）

e-mail: rikihi1002@gmail.com

目的 本研究は日本にとって脅威となる国・地域の知覚と、その理由について探索的に検討した。

具体的にシステム脅威プライムで用いた日本にとって経済的・軍事的脅威となる国・地域に関して、脅威の種類（経済的 vs. 軍事的）と、参加者の階級意識、年齢、及び性別によって脅威と知覚される国・地域、および、理由のテキスト内容が異なるかどうかを検討することを目的とした。

方法 研究実施時期：2023年3月

参加者 クラウドソーシングで募集
説明後にデータ使用を拒否した6名、指定した解答設問で不正解であったもの14名、性別に「その他」と回答した1名を除く377名を分析の対象とした（男性：184名，女性：193名，年齢： $M = 38.50$, $SD = 7.021$ ）。

手続き

- ①世代収入・性別・年齢を回答した
- ②日本にとって経済的・軍事的脅威となる国・地域を挙げ、その理由についても自由記述の形で回答した

結果&考察：脅威となる国・地域

経済・軍事的脅威において、挙げた国の割合に対して、5%未満と他の国・地域除外した分析：

経済的脅威					経済的脅威		軍事的脅威	
軍事的脅威		中国	ロシア	アメリカ	合計	中国 (64. 5%)	中国 (37. 4%)	
	中国	107	6	15	128	アメリカ (16. 7%)	北朝鮮 (34. 5%)	
	ロシア	44	7	9	60	ロシア (8. 5%)	ロシア (19. 6%)	
	アメリカ	10	4	12	26	韓国 (2. 7%)	アメリカ (6. 9%)	
	北朝鮮	79	15	26	120	インド (2. 4%)	－	
	合計	240	32	62	334	北朝鮮 (0. 8%)	－	

$\chi^2(6) = 27.492, p < .001$

$$\chi^2(6) = 27.492, p < .001$$

⇒ 同一の国・地域を挙げやすい

挙げられた国・地域の割合に性差も見られた

- ・ 経済的脅威：男性より女性、中国↓アメリカ/ロシア↑
- ・ 軍事的脅威：男性より女性、中国↓アメリカ↑

Figure 1 記述文の抽出語に対する対応分析:脅威タイプ×性別

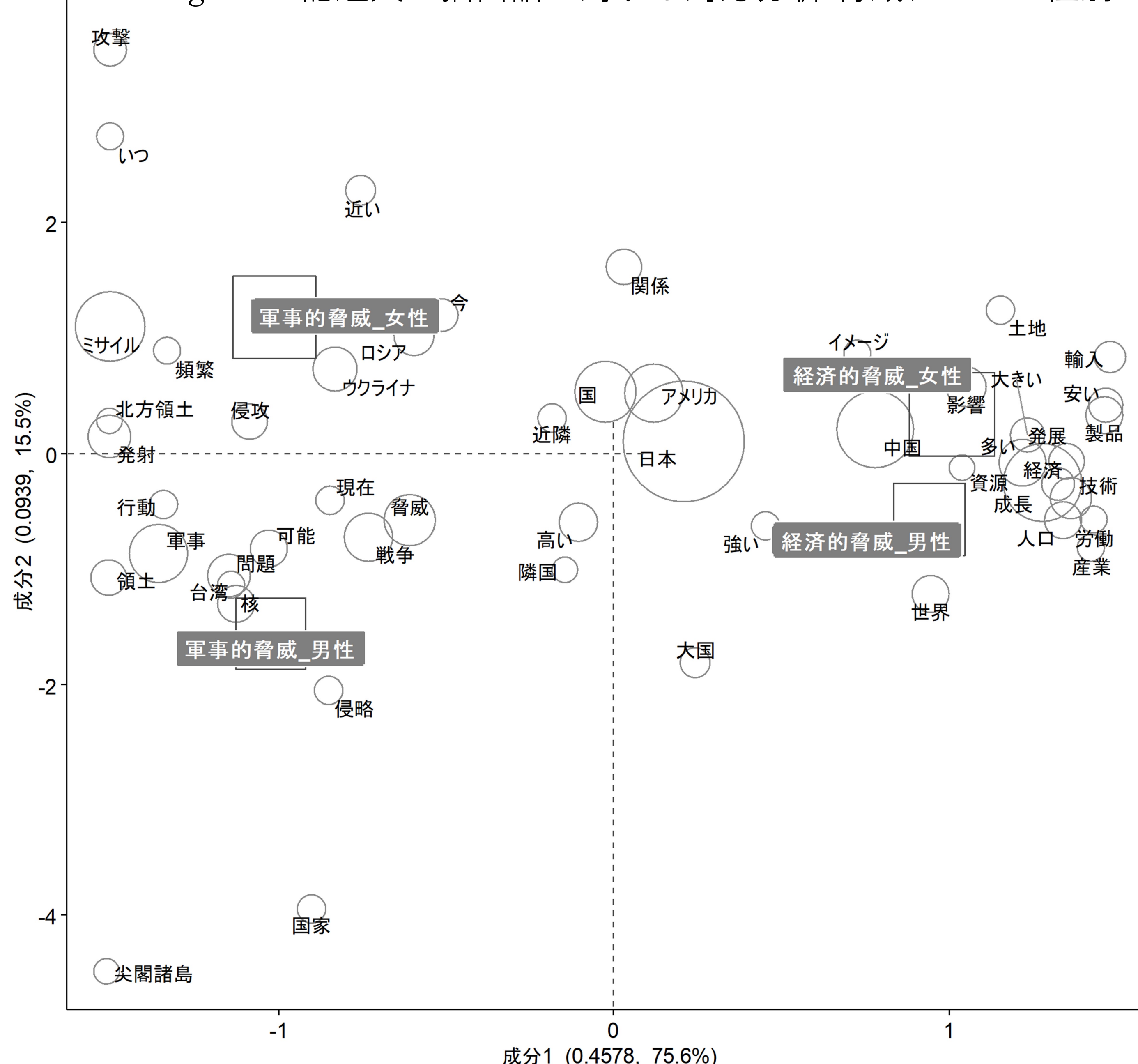
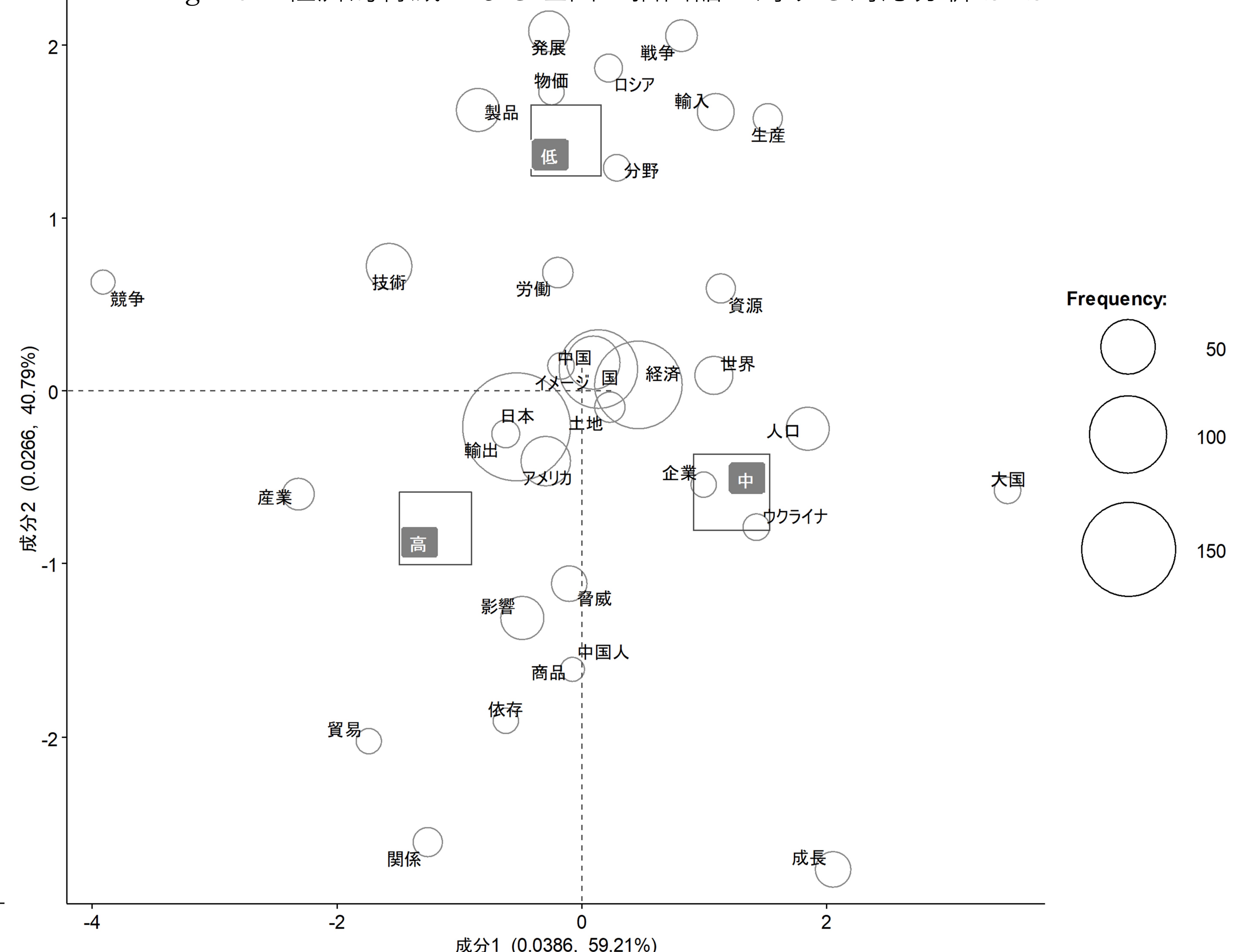


Figure 2 経済的脅威となる理由の抽出語に対する対応分析:SES



結果&考察：脅威となる理由

「KH Coder3」にてテキスト分析（ベイズ学習を用いる分類）

抽出語の対応分析

外部変数：性別×脅威種類

経済的脅威：男性と女性が使用した語は共通

軍事的脅威：

- ・ 男性参加者では、「尖閣諸島」や「台湾」といった近隣諸国に関する地政学的リスクに言及しやすい
- ・ 女性参加者では、「ロシア」と「ウクライナ」という遠隔地域を言及しやすい

外部変数：社会経済地位（SES；世代収入3段階）

- ・ SESの低い参加者では、「ロシア」、「戦争」や「物価」など日常生活に脅かすものを言及しやすい
- ・ SESの高い参加者では、「産業」、「貿易」などマクロ経済を言及しやすい

個人サイトでpdfを閲覧可能 ⇒

